

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想

まちぐるみ教育とみんなの学校で実現する再生ヴィジョン

目次

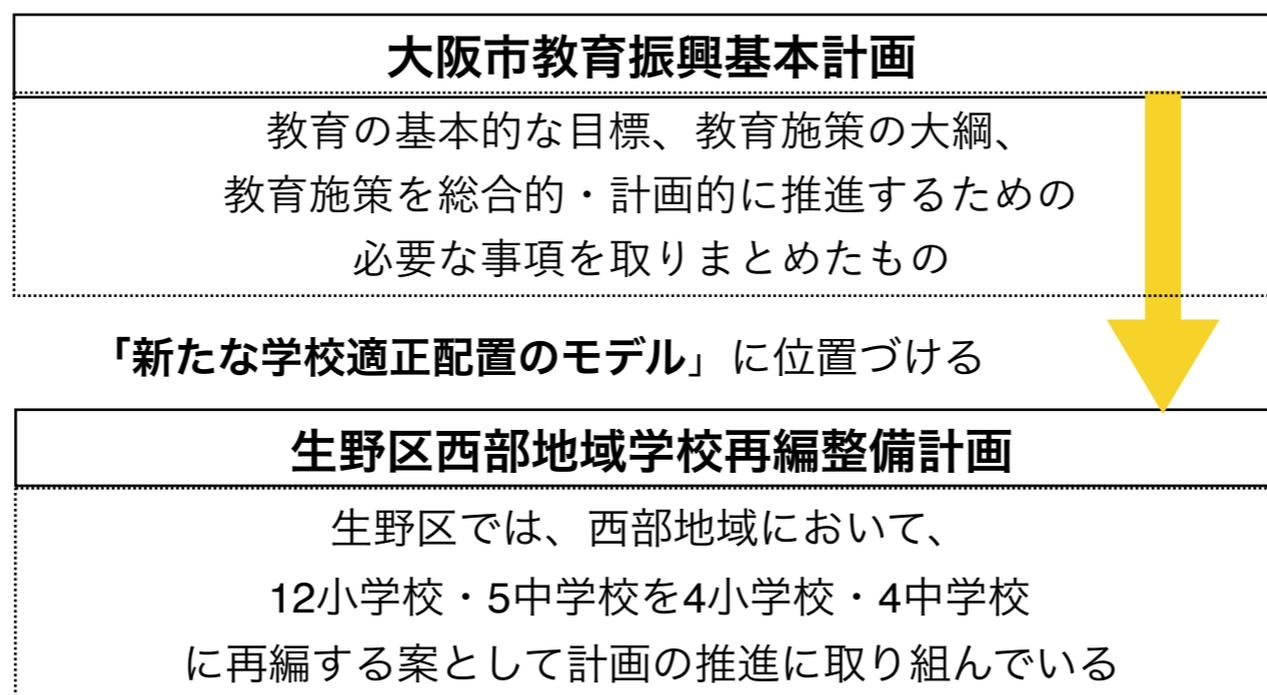
1. 本構想の目的と位置づけ	3	5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開	48
2. 生野区の現状	5	(1) CASE STUDY 01：世界のフードビジネスのスタートアップ学校	49
(1) 生野区の現状	6	(2) CASE STUDY 02：世代をつなぐ、ものづくり学校	57
(2) 生野区の歴史（猪飼野～現代まで）	7	(3) CASE STUDY 03：未来の福祉を見据えた農業ビジネスの学校	65
(3) 生野区のポテンシャル（強み・資源・機会）	10	(4) CASE STUDY 04：その他活用	72
(4) 生野区の抱えている問題	15	(5) 運営スキーム案	76
(5) 生野区の地域経営課題（主な課題）	20	(6) 学校運営に向けた今後の展開案	81
3. 再生ビジョン	21	(7) 「みんなの学校」のまちへの影響	83
(1) 生野区の地域経営課題（解決の方向性）	22	(8) 「みんなの学校」同士の連携イメージ	87
(2) 解決する手法としてのリノベーションまちづくり	23	(9) 生野のまちぐるみ教育とみんなの学校による政策課題の解決イメージ	88
(3) 空間資源である小学校	24	(10) 災害時における「みんなの学校」	89
(4) 再生のアプローチ：みんなの学校とまちぐるみ教育	26	(11) 「みんなの学校」を拠点とした交通政策	90
(5) 学校再編を機に目指す新しい生野の教育	28	(12) 「みんなの学校」における公的スペースの活用案	91
4. 4つの中学校区のエリアイメージとまちぐるみ教育のビジョン	30	(13) 福祉的な視点の「みんなの学校」（いずれかの学校・校区での展開案）	92
(1) 勝山・鶴橋中学校区エリア	32	6. 住みたいまち生野区へ～まちぐるみ教育とみんなの学校がある生野区～	93
(2) 生野中学校区エリア	36	(1) 生野区の未来は、なつかしい未来	94
(3) 田島中学校区エリア	40	(2) 週末、どこの学校へ行こう？—生野区のある一日—	95
(4) 大池中学校区エリア	44	参考事例	97
		用語解説	99

1. 本構想の目的と位置づけ

1. 本構想の目的と位置づけ

大阪市では少子化に伴い、教育環境に課題を抱える、クラス替えができない学年がある小学校や中学校に対して適正な教育環境の確保に向けた取組が求められている。

生野区では小中一貫した教育環境を創るため学校配置の再編を行うとともに、幼少期から中学校卒業まで地域ぐるみで関わりを持ち、安心して子育てができるまちづくりの実現をめざしている。さらには災害に強いまちに向けた環境整備なども見据えた新たな学校づくりをまちづくりとあわせて進めていく「生野区西部地域学校再編整備計画」の取組を進めている。



今回の「まちづくり構想」は、学校再編整備計画に伴って発生する「学校跡地の新たな利活用（リノベーション）を核としたまちづくり」について検討するために、区民ニーズアンケートやフォーラムでの区民の方のご意見を踏まえて作られたものである。

すべての学校再編が決まったわけではないが、一方で学校跡地をどのように活用するのか具体的に示してほしいとの声が多く寄せられている。今後は、この構想をベースに、官民協働・市民協働でさらに意見を交わしながら、各学校跡地に防災機能を担保しつつ、生野区の皆さん（ファミリー、単身者、高齢者、障がい者など誰もが）が様々な“学び”に関われることで、生野区全体が学びの場となり、生野区ならではの、暮らし・教育・仕事が育ち、生野区全体の再生につながる学校跡地の新たな利活用（リノベーション）とまちづくりの進め方を具体化していく。

2. 生野区の現状

■ 2. 生野区の現状

(1) 生野区の現状

生野区は、人口129,379人（2019年2月1日現在推計人口）、市の東南部に位置する。生野区は、人口減少に加え、子育て世代の流出から少子化の傾向が顕著であり、19小学校、9中学校のうち、7小学校が全学年単学級化(2018年時点)している状況にある。

教育環境においては、学校の小規模化、教員の多忙化が進んでおり、また「経済格差」により、家庭学習量や基礎学力、高校中退や将来の進路選択に影響していることから、今までの学校観・教育観からの転換が求められている。すなわち、学力だけではない、「未来を生き抜く力が育つまち」をまち全体で作っていくことで、子育て世代に選ばれる生野区にしていくことが求められる。

また、都市経営課題につながっている「まちのネガティブイメージの定着」「移住者を惹きつける仕事の不足」「地域資源が十分に活かしきれていないこと」の解決、また、区民ニーズ調査で意見がでていた「学校再編の意義」や「学校の具体的な活用内容」の説明を通して、まずは区民の方がさらに生野区のまちに誇りをもてるような、まちづくりに取り組んでいく必要がある。

2. 生野区の現状

(2) 生野区の歴史（猪飼野～現代まで）

明治以前(-1868)



出典：今昔マップ on the web

古代の生野区において、現コリアタウン付近のエリアは、「猪飼野」（'猪'（豚）を'飼'う地）と呼ばれ、朝鮮半島の「百済」から来た多くの渡来人が住んでいた。

日本書記の仁徳14年のくだりには「猪甘津（いかいのつ）に橋をわたす。よって小橋となづく」という一節があり、そこから猪飼野の地名が発祥し、猪飼野と呼ばれるようになったと考えられている。

この時代から、生野区の国際文化の始まりがあることがわかる。

出典：わが郷土 猪飼野を語る（3-5行目）

明治時代(1868-1912)

明治中頃までは、平野川・猫間川等の水利に恵まれ、米や麦をはじめ、菜種、綿などを栽培する豊かな農業地帯として広がっていた。

明治28年開通の天王寺 - 大阪間（現JR環状線）や大正3年4月開通の上本町 - 奈良間（現近鉄奈良線）などの鉄道敷設により商工業が発展し、都市化が急速に進む。

出典：生野区ふれあいマップ

■ 2. 生野区の現状

(2) 生野区の歴史（猪飼野～現代まで）

大正時代(1912-1926)

多くの渡来人が住んでいたこの地に再び多くの韓国・朝鮮の人たちが住むようになったのは、明治末期から大正時代初めにかけての頃。

工場労働者に始まり、大正8年からの平野川開削工事労働者によってその集落は大きくなり、大正12年濟州島一大阪間の君が代丸運行開始により、さらに移住者が増加する。また、耕地整理事業により、地域整備がさらに進み、住宅地として発展していく。

その後は、逐次農業から加工業に移り、鶴橋の鏡、生野のマッチや田島の眼鏡レンズ、小路のくしなどが特産物とされるようになる。第一次世界大戦後には、鉄工業やメリヤス、防水布、サンダル、セルロイド製品、ブラシなどを生産する中小の工場が多い”ものづくりのまち”として栄え、人口は急速に増加した。

出典：生野区ふれあいマップ（下3行）

■ 2. 生野区の現状

(2) 生野区の歴史（猪飼野～現代まで）

昭和時代(1926-1989)

区画整理事業や河川改修工事の促進、それにバス路線の充実と昭和7年3月国鉄城東線の高架化、同8年2月の電化により、一段と都市化された。昭和18年には、東成区から分区して生野区が誕生する。

出典：生野区ふれあいマップ

平成時代(1989-2019)

平成元年大阪市政100周年となる。平成2年には鶴見緑地（鶴見区）で国際花と緑の博覧会開催。
平成5年生野区は区制50周年となる。平成6年には関西国際空港が開港し、大阪・関西が本格的な国際化時代を迎えることになる。

平成9年には、「なみはや国体」「ふれ愛ピック大阪」を記念して、大阪市スポーツ推進委員生野区協議会（当時、生野区体育指導委員協議会）が考案した生野区発祥のニュースポーツ「スリーアイズ」を創出。平成16年には、生野区マスコットキャラクター「いくみん」が誕生し、平成21年には、高齢者の介護予防のために「いくみん健康体操」が完成している。

出典：生野区ふれあいマップ

2. 生野区の現状

(3) 生野区のポテンシャル（強み・資源・機会）

Strength

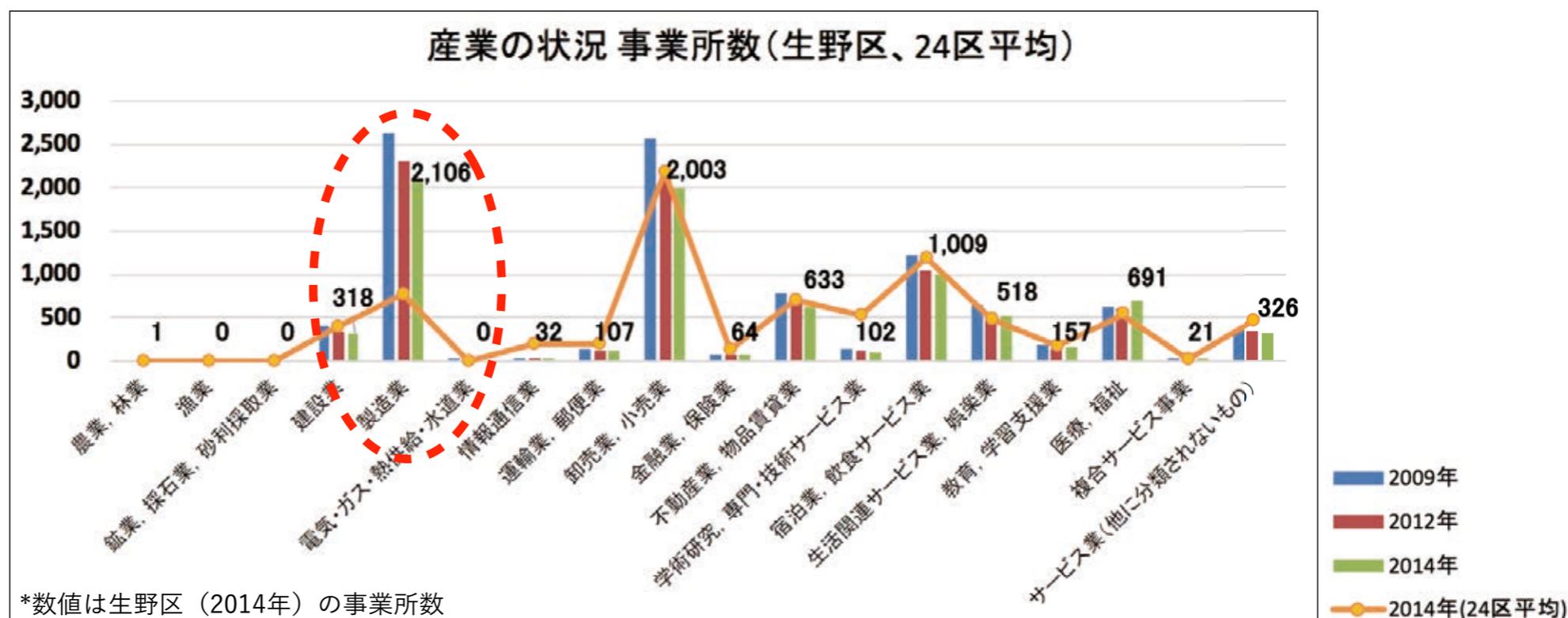
強み・資源

1. 外国籍住民の割合が約21%(2018年時点)と全国（都市部）で1位を誇り、
国籍約60カ国にのぼる多文化の共存
2. 日本の自治体の中で突出して
在日コリアンの割合が高く、日本最大の 코리아タウンが存在
3. 製造業・事業所数が大阪市内で1位を誇り、様々な技術を持った製造会社が多数集積

*大阪での万国博覧会の公式メダルへのメッキなどの金属等加工

*大阪唐木指物、神具、切子などの芸術・工芸品

*ランドセルやサングラス・サンダルなどの生活関連用品など

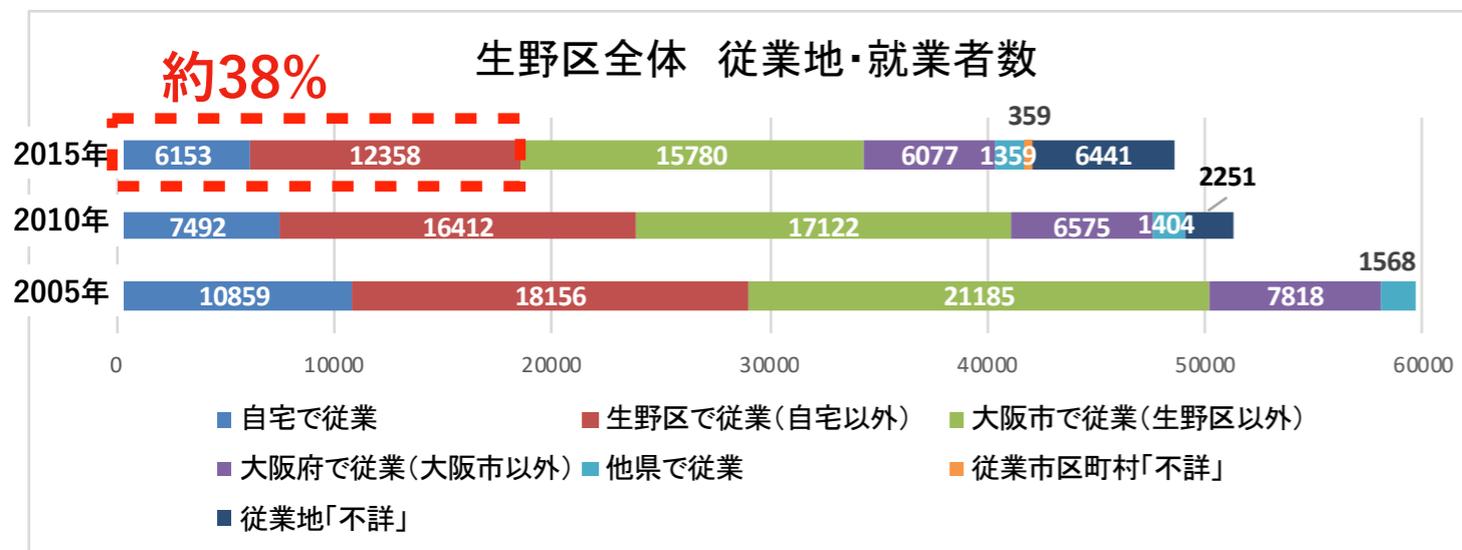


2. 生野区の現状

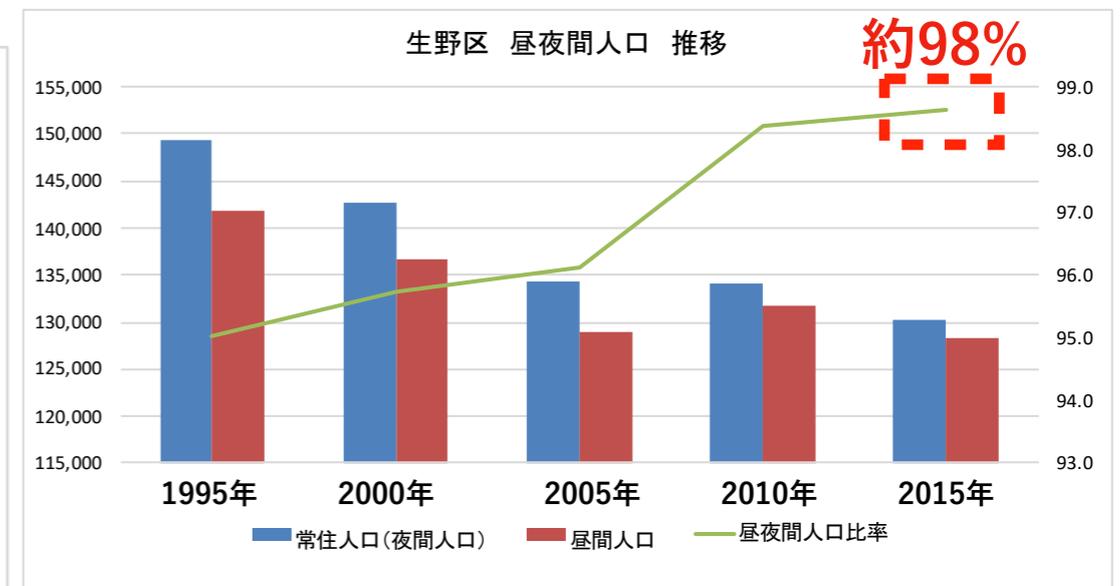
(3) 生野区のポテンシャル（強み・資源・機会）

Strength
強み・資源

4. 生野区内での就業者数が約38%(2015年時点、24区平均34.2%)、昼夜間人口比率が約98%(2015年時点)と昼夜間人口の差が少なく、住みながら働く人が多い（職住近接・職住一体）



出典：国勢調査（2005年、2010年、2015年）



出典：国勢調査（1995年-2015年）

■ 2. 生野区の現状

(3) 生野区のポテンシャル（強み・資源・機会）

Strength

強み・資源

5. 様々な年代層でスポーツ文化が息づくまち

- ・ 学校、スクールなどから全国レベルの優れた人材を多く輩出
- ・ 生野区発祥のニュースポーツ「スリーアイズ」が全市に広がる
- ・ 介護予防のための「いくみん健康体操」が区内全域で取り組まれる

6. 計画変更により、**新たな活用の可能性が見込める**住宅地区改良事業用地の空き地（整備未着手用地等）がある

7. 近隣区との区境においてみられる**家賃断層エリアの存在**

8. NPO法人・ボランティア団体の数が多く市民活動が活発

福祉施設や障がい者の支援団体が多く社会的包摂の視点を大切にする土壌

2. 生野区の現状

(3) 生野区のポテンシャル（強み・資源・機会）

Strength

強み・資源

9. 昔ながらの長屋の住まいが多く見られるなど、懐かしい昭和の風景が未だ残る

10. 飛鳥時代からの異文化交流の歴史

11. 地域のつながりが比較的強い

生野区は市内でも有数の"地車どころ"で夏祭りや秋祭りには各地域で盛んに曳航される

12. いくつもの歴史ある商店街や長屋や町工場、銭湯等が残る

匿名都市*ではない人間的な土壌が残っている文化

*不特定多数の一員で人々の特徴がわかりづらい都市



2. 生野区の現状

(3) 生野区のポテンシャル（強み・資源・機会）

Opportunity

機会

1. 多文化を活かした、多国籍の食を味わえる
食のスタートアップ展開の可能性
2. ものづくり・職人のいるまちであることを活かし、
生野区のものづくりを、暮らしながら学び、自分でものを作れる拠点となる可能性
3. 全国レベルで起きている少子化に伴う
学校再編と校舎活用検討の必要性
4. 偏差値主義ではない、
未来を生き抜く力を培える教育のあり方に対する、社会ニーズの高まり
5. 空き家や駐車場、未活用の公共空間も含めた
一体的なエリアリノベーションを実践できる機会
6. 2019年度から改正出入国管理法が施行され
外国人労働者/ 外国籍住民の一層の増加の見込み
7. 2019年4月からBRT社会実験の開始
(地下鉄今里～杭全～あべの橋、地下鉄長居)
BRT（バス高速輸送システム）による交通の利便性向上の可能性



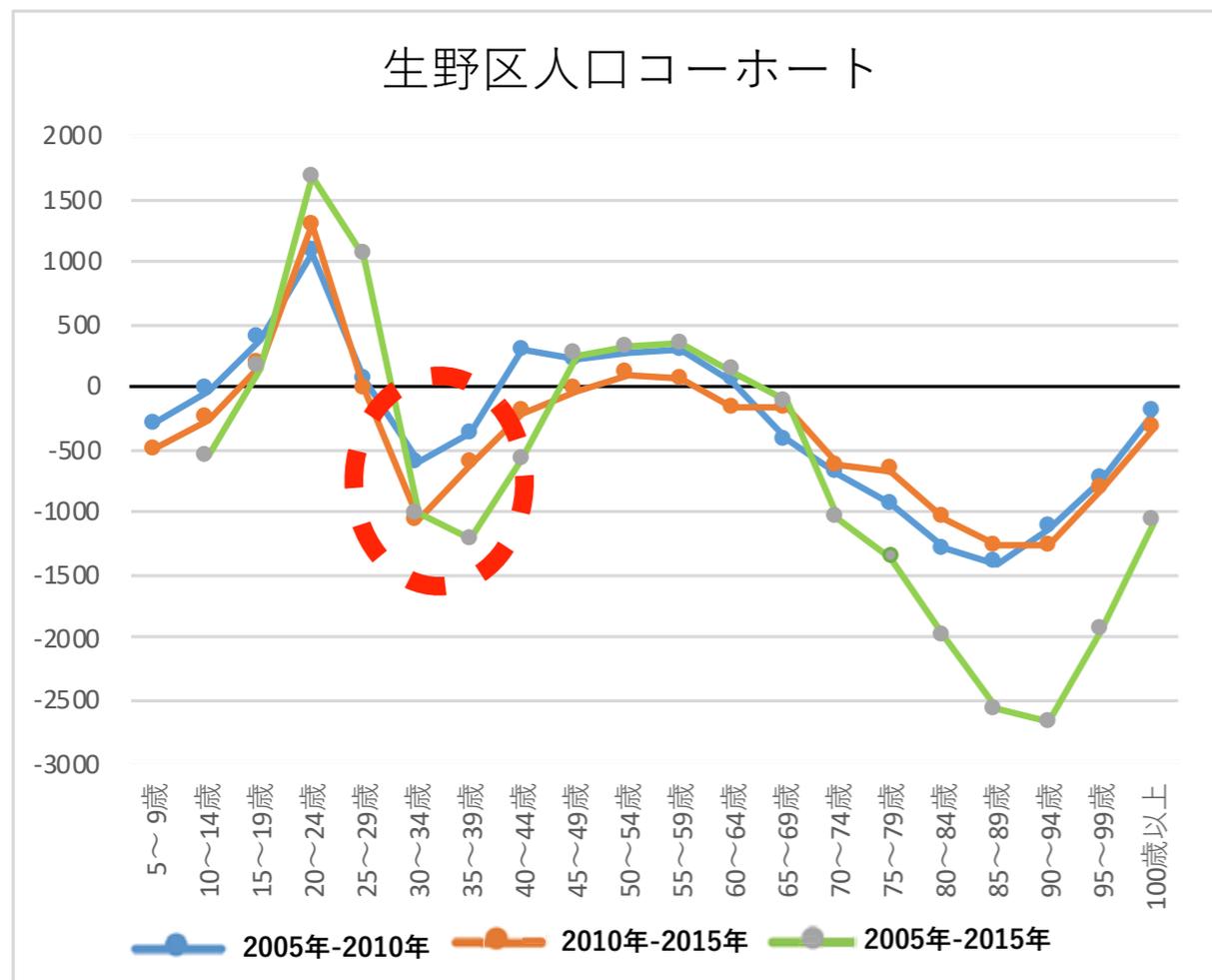
BRT運用ルート

2. 生野区の現状

(4) 生野区の抱えている問題

○ 子育て世代の流出

19の小学校、9の中学校のうち、7小学校が全学年単学級化(2018年時点)の状況にある。子育て世代を取り戻すため、転入、定住を促す環境づくりが求められる。



出典：国勢調査（2005年、2010年、2015年）

○ 児童数の減少

生野区は学校数の割に児童数が少なく、特に区の西部地域では1学年あたりの単学級化が進行し、2学級を確保できない状況にある。クラス替えができ、多くの児童と学び合えるよう、こどもたちの教育環境を改善していくことが求められており、区の西部地域では、学校再編整備計画が進められている。

生野区と大阪市における、小学校に関するデータ

	生野区	大阪市
児童数	4,503人	114,590人
学校数（分校含む）	19校	290校
学級数	165学級	3,684学級
1学年あたりの学級数	1.45 学級	2.12 学級

出典：2018年度学校現況調査（2018年5月1日現在）

2. 生野区の現状

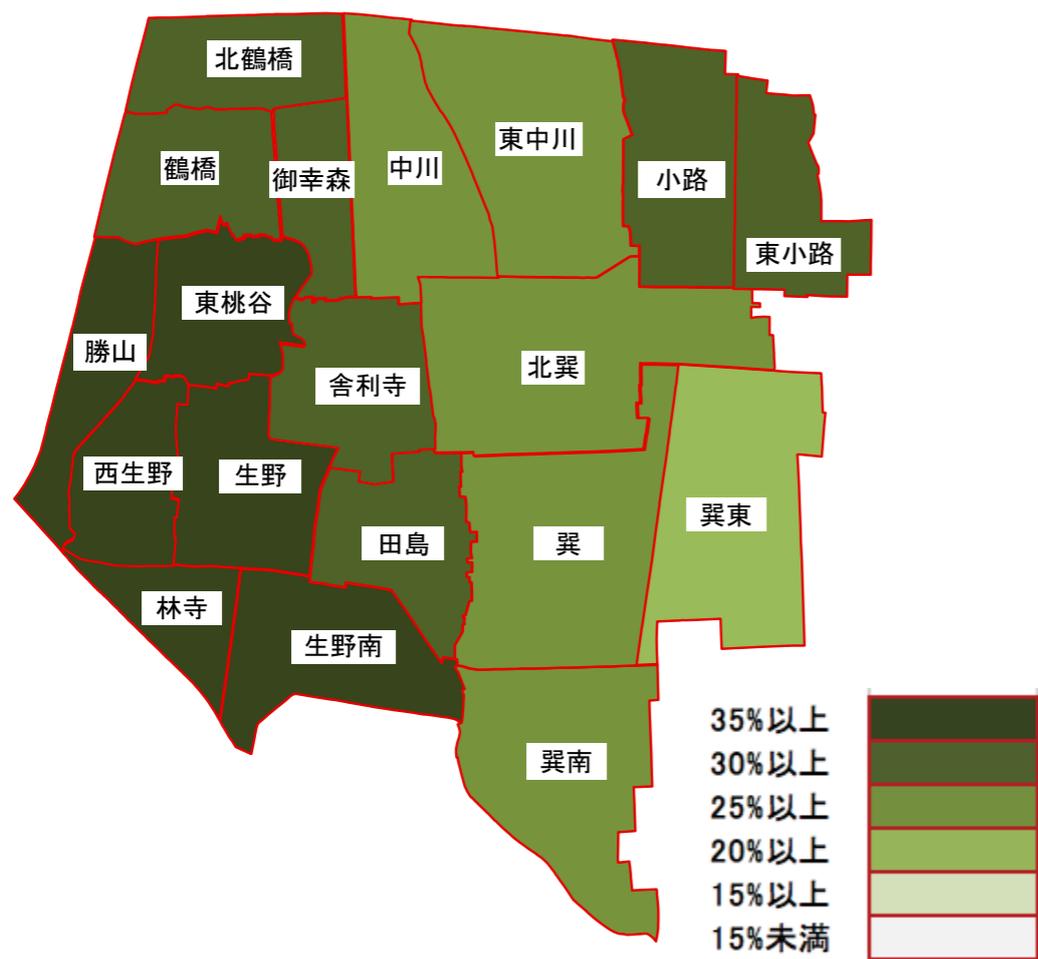
(4) 生野区の抱えている問題

○ 高齢化率が高い

生野区は、高齢化率 約30%、高齢単身者率 約20%となる。(2015年時点)

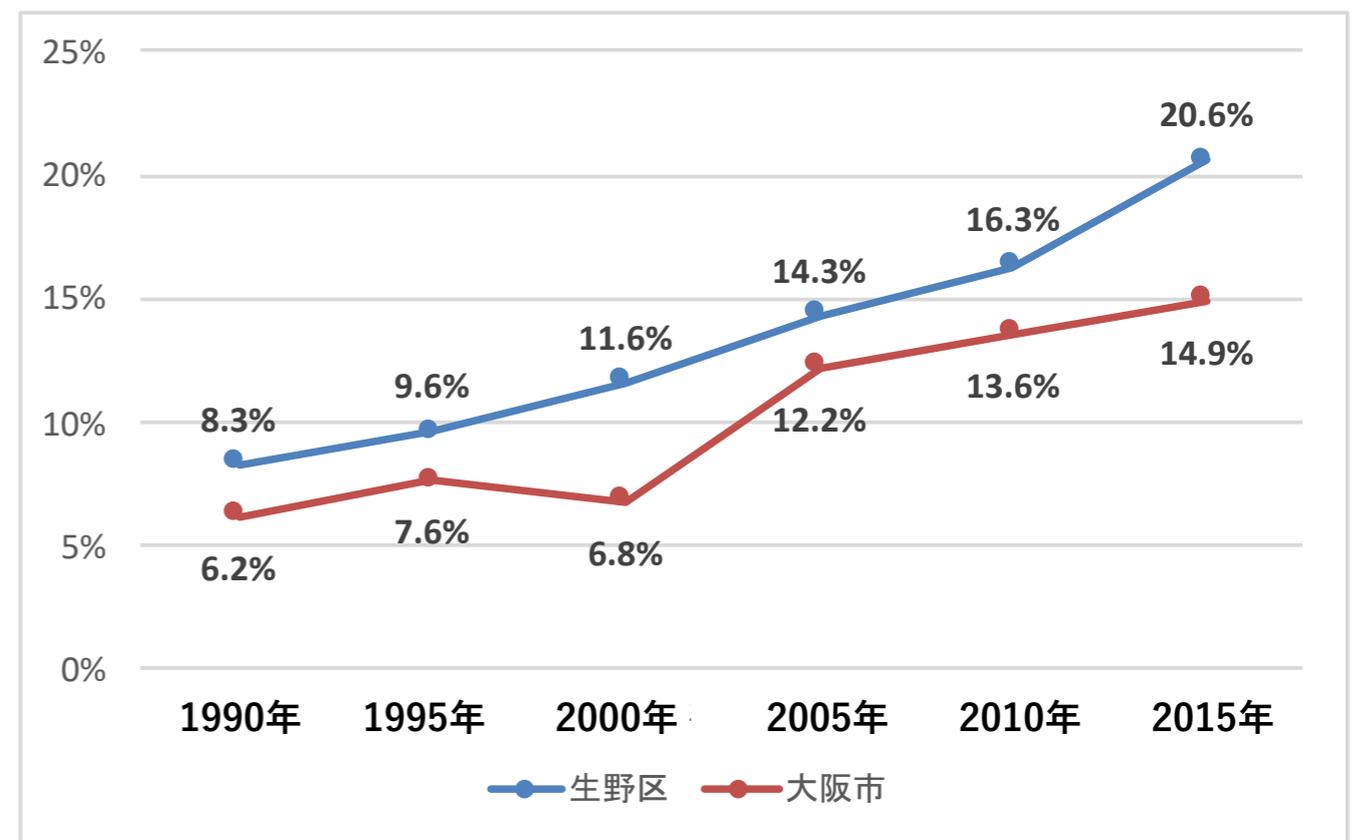
高齢者が地域で孤立せず、健康にいきいき暮らせる環境づくり・居場所づくりが求められる。

高齢者人口（65歳以上）が総人口に占める割合



出典：国勢調査（2015年）

全世帯に対する高齢単身者の推移



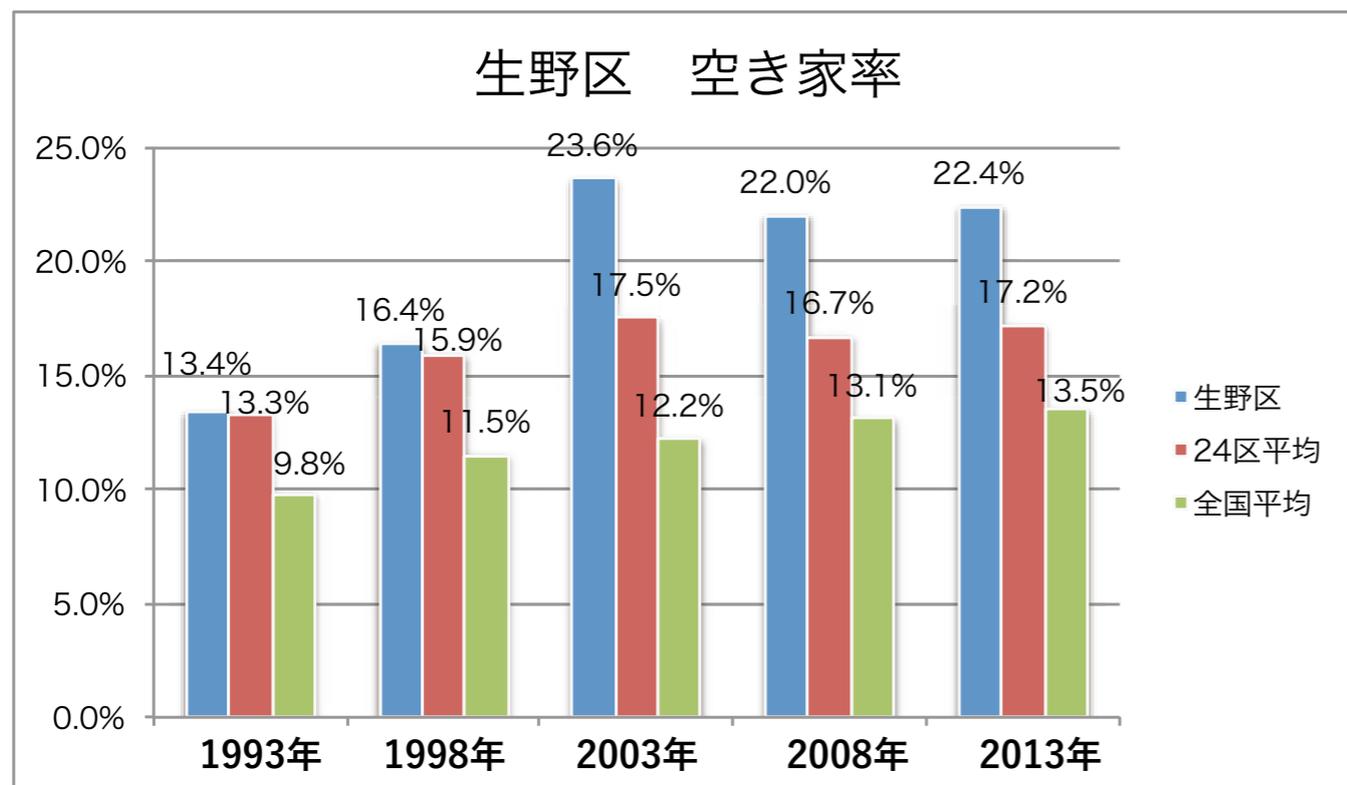
出典：国勢調査（1990年～2015年）

2. 生野区の現状

(4) 生野区の抱えている問題

○ 空き家率 約22%で、市内3位(2013年時点)

昭和初期から残る空き家も多く、活用が十分に行われていない状況にある。空き家の増加はまちの活力の喪失や安全・安心なまちづくりの阻害要因などになり、課題となっている。

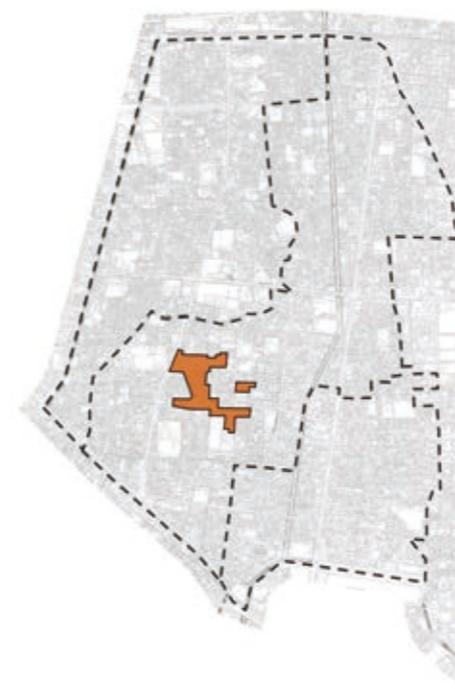


出典：住宅土地統計調査（1993年～2013年）

○ 住宅地区改良事業用地の 空き地(整備未着手用地等)の課題

生野区南部地区における住宅地区改良事業の用地取得率は約61%(2017年度時点)である。事業の長期化に伴って地区人口が減少するなか、立退き世帯の受け皿となる改良住宅の整備計画も含め、地区全体の計画見直しを検討されている。

取得した用地は、住宅地区改良法で、その用途が限定されているが、整備未着手な面積が相当あり、エリア価値に大きな影響を持っていることから、暫定的活用なども含め、エリア価値の向上につながる活用案を検討する必要がある。



住宅地区改良事業用地の空き地

2. 生野区の現状

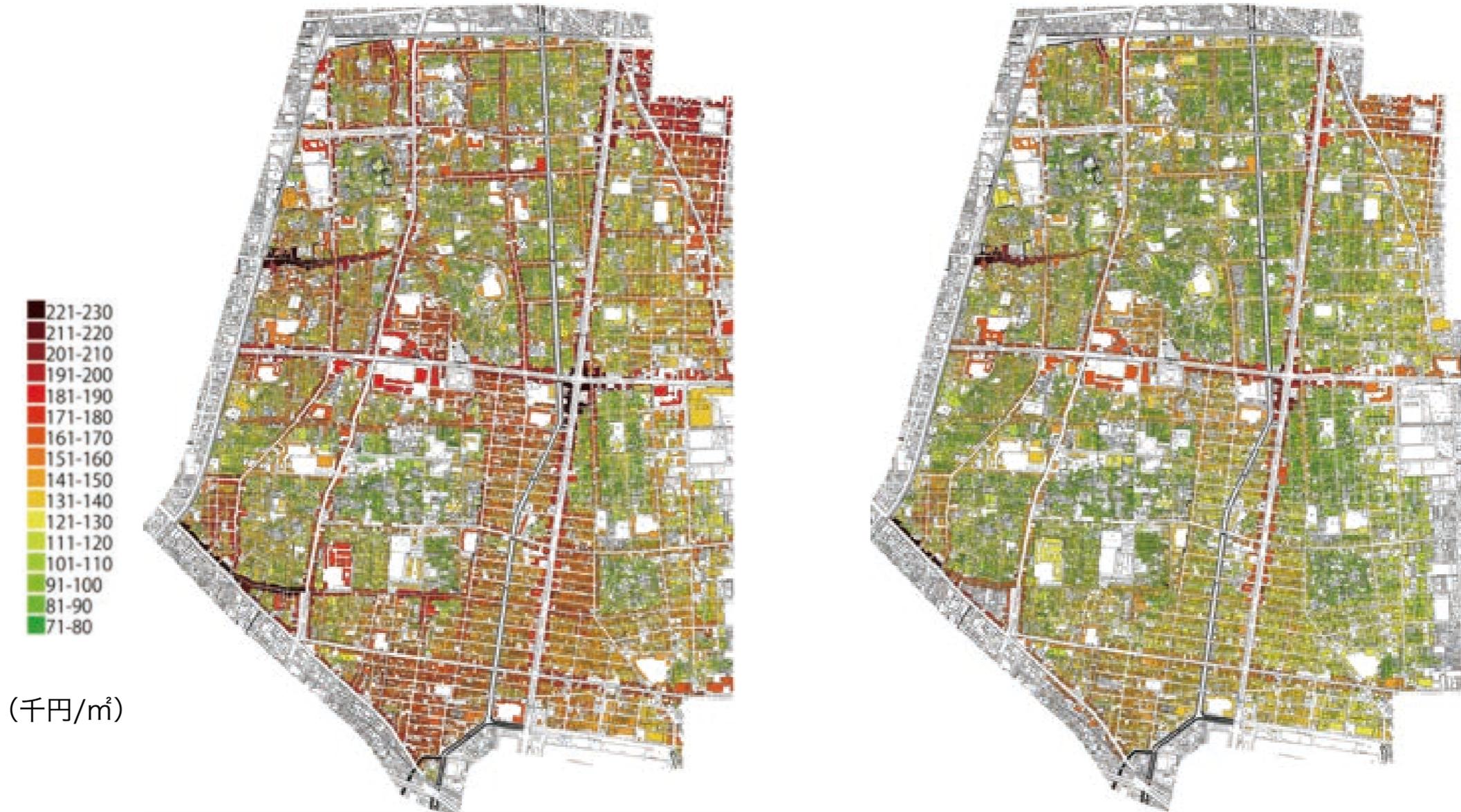
(4) 生野区の抱えている問題

○ 地価の下落が進む

2007年から2017年で地価が下落していることがわかる。エリア全体の魅力をあげていき、地価を上げていくことが求められる。

2007年の路線価ヒートマップ

2017年の路線価ヒートマップ



出典：国税庁 路線価

2. 生野区の現状

(4) 生野区の抱えている問題

○ モビリティマネジメント

田島小学校周辺エリアは、交通空白地域があり、交通が不便であるため、人通りも少ない状況にある。交通も含めエリア価値の上げ方を検討していく必要がある。

○ 多文化共生への理解

長年、多文化共生への理解を深めるための活動が続けられている。文化の違いとコミュニケーション不足からくるニューカマーと地域住民間での生活トラブルも生じている。

○ 産業の疲弊

ものづくり技術の伝承や担い手の創出のため、魅力的な産業、仕事の創出が課題となっている。

○ 災害に伴うまちへの甚大な被害の可能性

老朽化した住宅や細街路が多く、防災面や住環境面に課題のある「特に優先的な取り組みが必要な密集住宅市街地（優先地区）」が、今里筋以西を中心に区内の1/3を超える範囲に広がっている。防災の拠点となる学校においても、現在の学校が空き校舎となった場合、防災機能を担保できる経費も賄える校舎活用の具体的なあり方の見通しがまだたっていない。

○ ネガティブイメージの定着

平成29年度区民アンケート調査によると、回答された6割の方が生野区に対し治安が悪い等のネガティブなイメージを持っていることから、ネガティブイメージを払拭し、新たな生野区のイメージを創出していくことが求められる。

○ 子、孫の世代が帰ってこない

同級生が少ない、子育てがしづらい等の理由で二、三世代目が地元に戻ってこないという声が多い。

■ 2. 生野区の現状

(5) 生野区の地域経営課題（主な課題）

生野区の抱えている問題を踏まえると、これらが生野区を再生していくための主な課題と考えられる

- ・ エリア固有の強みや魅力を、**生活環境の価値として活かす**
- ・ 魅力的な教育・居住環境を整えることで、**子育て世代の流出を食い止め、流入につなげる**
- ・ かつての治安の悪さなどによる、**まちのネガティブイメージの払拭と新たなイメージの創出**
- ・ 空き家、空き地等の活用を進めることによる**地価の上昇**